

枚方中国語を学ぶ会だより

2018年1月号
枚方中国語を学ぶ会

楽しく盛り上がった合同学習会



各班采访记①入門班

アクセントに 悪戦苦闘



【写真は入門班の授業風景】

昨年11月29日（水）、市民会館に入門班の学習風景を取材に行きました。

授業開始前、教室から「補講」として毎週行われている「発音練習」する参加者の声が聞こえてきました。

6時半、いよいよ授業が始まりましたが、講師の西川会長の発音に対する厳しさは続きます。順番に教科書を読んでいる間も、間違ったり、不明確な発音は、必ずやり直し。入門班の皆さんの悪戦苦闘ぶりが伝わってきました。

しかし、一度ついた変な癖は、それ以降の学習に悪影響。最初に正しい発音を習得する大切さを改めて感じた入門班の授業でした。

昨年11月19日（日）、蹉跎生涯学習センターで、合同学習会があり、各班から35人の参加がありました。

今年の合同学習会では、運営委員会での提起を受けて、これまでの班ごとの座席から、全員をAからDのグループに分け、どのグループにも各班のメンバーがいるという形をとりました。

今西事務局長の挨拶、各グループでの自己紹介の後、昨年に続いて「ゲームで学ぼう中国語単語」が始まりました。画面から流れる発音に耳をすまし、4択で正解を答える方式に、参加者は、真剣なまざしで臨

みました。（写真左）

今回は、メンバーの合計獲得点が最高のグループに賞品が当たるという形式をとり、みごとAグループが最高得点となりました。

続いて懇親会にうつり、井野本部顧問の音頭による乾杯の後、各グループでは班を超えた交流が進みました。班の出し物では、中級班の歌「ここに幸あり」、今や定番となった上級I班の「クイズ」、上級II班の「大阪弁と中国語」があり、西川会長のあいさつと今西事務局長の「三本締め」（写真右）で、今年の学習会を終えました。

西川会長の 中国語余話⑧

今回は、外国語上達法について考えましょう。

最近はいろんな面で費用対効果が何かにつけて重要視されますが、外国語習得に関してはそうは簡単にはいかないということです。

子供は言葉を聞いているだけで簡単に覚えるので、大人も外国語を聞き流しておれば、自然に外国語が身につくと考えられています。

でも、そうはいかないようです。子供は12,3歳まで、人間（動物）として大切な言葉を習得する能力が自然に備わっています。でも、それ以上の年齢になると衰退していくというのが定説です。

なので、中学生以上の年齢になると、外国語習得のためには、ただ聞き流しているだけではだめで、自分なりに、あれもこれも色々な方法を用いて努力しないと、上達は不可能のようです。

外国語の習得は本当に大変ですね。